

【氏名】 内野 智之

【所属大学院】(助成決定時) 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科

【研究題目】

高校における発達障害問題の実態と特別支援教育システムの構築に関する研究

【研究の目的】

中央教育審議会「特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申)」(2005年12月)において「後期中等教育における特別支援教育の推進に係る諸課題について、早急な検討が必要である」と初めて高校特別支援教育について言及された。しかし「まず、小・中学校における総合的な体制整備を着実に進める」としてその課題は後回しにされかけた高校特別支援教育であるが、「特別支援教育体制整備状況調査」や「高等学校における発達障害支援モデル事業」を行い、文部科学省の対応にも変化が現れてきた。しかし高校特別支援教育の体制整備に遅れがあると指摘しながらも、研究・状況調査以外に具体的な施策を打ち出せないでいる。小・中学校だけではなく高校においても特別支援教育を構築し、発達障害の生徒が抱える多様な困難・ニーズに対する支援体制の具体化が早急の課題となっている。高校特別支援教育構築のために、高校に在籍する発達障害生徒の教育実態と彼らの困難・ニーズを明らかにするとともに、その実態とニーズに応じたサポートシステム構築のための課題を検討することを研究の目的とする。

【研究の内容・方法】

本研究「高校における発達障害問題の実態と特別支援教育システムの構築に関する研究」では、具体的に以下の研究作業に取り組んだ。

- ① 教育行政の高校特別支援教育施策に少なからず影響を与えてきた1990年代以降の民間・学界での論議を検討し、近年の文部科学省の高校特別支援教育に関わる議論を検討し、各都道府県教育委員会の高校特別支援教育施策および都道府県教育センターの高校特別支援教育に関する調査研究等の検討を行うことを通して、発達障害生徒への高校教育の保障という視点から今日の高校特別支援教育の動向と課題を明らかにした。
- ② 都道府県・政令指定都市の教育委員会および都道府県知事部局内にある私学主管課の高校特別支援教育施策を検討するために、「高等学校における特別支援教育の施策に関する調査」を行い、高校特別支援教育に対する施策、対応、課題を明らかにした。
- ③ 高校における特別支援教育システムの整備状況および発達障害生徒の学習、学校生活、進路・移行支援の実態を首都圏1都3県の高校等への実態調査を通して検討し、諸課題を明らかにした。
- ④ 埼玉県を事例として高校に在籍する発達障害生徒の学校不適応の実態を検討するために、「軽度知的障害を含む発達障害生徒の学校不適応に関する実態調査」を実施し、高校におけ

る彼らの困難・ニーズと学校の対応の実態および当面する課題を明らかにした。

- ⑤ 発達障害を有する生徒の中学校と高校との接続問題について、東京都の中学校特別支援学級担任・通級指導学級担任、特別支援教育コーディネーター・進路指導担当を対象に発達障害生徒の高校進学に関する調査を行い、発達障害生徒の中学校と高校との接続の実態と課題を明らかにした。
- ⑥ 発達障害生徒の中学校と高校の接続の実態と課題について、医療機関や専門機関で LD、ADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症、発達障害を併せもつ知的障害等と診断・判定され、またそうした障害認識を十分に有する高校生以上の青年・成人当事者および保護者を対象に、本人には「高校進学についてのアンケート」、保護者には「発達障害生徒の高校進学に関する保護者調査」を実施し、本人・保護者が抱えている高校進学の困難・ニーズを明らかにした。
- ⑦ 高校等に在籍する発達障害の本人・当事者にしかわからない各種の困難・ニーズを検討するために、「発達障害の本人の教育実態・ニーズ調査」を行い、学習・学校生活・進路等における困難・ニーズについて検討し、当面する課題を明らかにした。
- ⑧ 高校等に在籍する発達障害生徒の保護者のニーズ、また高校等調査で明らかになった実態に対する意見を検討するために、「高校等に在籍する発達障害生徒の保護者のニーズ調査」を行い、子どもの有する学習・学校生活・進路等における困難・ニーズについて検討し、当面する課題を明らかにした。

【結論・考察】

今日の高校特別支援教育への取組みの現状から以下の課題が指摘できる。①入学選抜試験が行われるなかで発達障害生徒の中学校と高校との接続の課題、②単位・進級認定や通級指導教室・発達障害生徒の専門コースといったダブルスタンダードをめぐる課題、③高校からの進学・就職等に関する進路指導・移行支援の課題である。

発達障害生徒にとって後期中等教育の場をどこに求め、選択・決定することはとても大きな問題である。高校、専修学校、特別支援学校かで卒業後の社会への接続の仕方に大きな違いがあり、進学した学校で今後の方向性が決まってしまうのが今日の後期中等教育の現状である。今日の高校特別支援教育は、高校において発達障害生徒を十分に把握できていない現状と支援方法の難しさがあるだけでなく、中学校から高校への接続、および高校からその後の進学・職業教育・就労等のステージへの移行支援においても未解決の課題が山積している。現在、これら高校の独自課題に関する研究の積み上げが強く求められている。